

強者の戦略

東大日本史のみかた 47〔問題編〕

第 47 回となる今回は 2021 年の東大日本史の第 3 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

【2021 年度 東京大学 文科前期 第 3 問】

次の (1)～(4) の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

- (1) 1707 年に富士山が大噴火して広範囲に砂（火山灰）が降り、砂はさらに川に流れ込んで大きな被害をもたらした。幕府は、砂除川^{すなよけかわ} 俊 奉行を任命するとともに、「近年出費がかさんでおり、砂が積もった村々の御救も必要」として、全国の村々から「諸国高役金」を徴収した。
- (2) 豊かな足柄平野を潤す酒匂川^{さかわ} では、上流から砂が流れ込んで堆積し、氾濫の危険性が高まっていた。幕府は他地域の大名にも費用を分担させ、最も危険な箇所を補強する工事を緊急に行ったが、砂の除去が不十分で堤が切れ、下流域で洪水が繰り返された。
- (3) 砂が最も深く積もったのは、酒匂川上流の冷涼な富士山麓の村々であった。砂除には莫大な費用が見込まれたが、幕府からの手当はわずかであり、一部の田畑を潰して砂を捨てていた。後には砂を流す水路の開削費用が支給されるようになったものの、捨てた砂は酒匂川に流れ込み、下流部に堆積してしまった。
- (4) 幕府に上納された約 49 万両の「諸国高役金」のうち、被災地の救済に使われたことがはっきりしているのは 6 万両余にすぎなかった。その 6 万両の大半は酒匂川の工事にあてられた。

設 問

- A 幕府が (1) (4) のような対応をとる背景となった 17 世紀後半以降の幕府財政上の問題について、2 行以内で述べなさい。
- B 被災地の救済にあたって幕府はどのような方針をとり、それにはどのような問題があったか。(2) (3) のように対応が異なる理由に注意して、3 行以内で述べなさい。